

立正大学哲学会

2017 年度春夏大会

体の感覚と
物象の知覚・質と
空間規定

日時 2017年7月15日(土) 15時～

場所 立正大学品川キャンパス 1152 教室

シンポジウム

「物の秩序と人の秩序 ——松永澄夫
の哲学・近著『経験の要素』『感
情と意味世界』を中心に——」

※来聴歓迎 学外の方もご参加いただけます

問合せ先: 立正大学文学部事務室(03-3492-8791)

立正大学文学部哲学科共催。

松永澄夫
Matsumaga, Sumio
経験の
要素

日常の知覚・感覚
徹底した精緻化

人間は価値を孕んだ意味の世界を生きていく。その世界との接触を基盤に生じてくる。この経験は、感覚・体運動・物象の知覚という要素から成る。本書は、人間の「物的世界」認識の至微を、体感覚・体運動・物象の知覚という要素から成る。本書は、人間の「物的世界」認識の至微を、体感覚・体運動・物象の知覚という要素から成る。本書は、人間の「物的世界」認識の至微を、体感覚・体運動・物象の知覚という要素から成る。

松永澄夫
Matsumaga, Sumio
感情と
意味世界

描く
「こと」の総体

身体して生じて続ける感情——喜び、希望、苦悩、恐怖等が、人間の経験の重要な位置を占めるが、多様なエピソードを用いつつ活写。体の感覚、物象の要素に感情が加わって意味世界が形成されるが、各自が個々に描く意味世界が互いに感情を感受する際の経験である。感情と、言葉、評価、自由、も鮮明に描き出している。東信堂 定価 本体2800円(税別)

提題者

松永 澄夫 氏(本学文学部教授)

村瀬 鋼 氏(成城大学文芸学部教授。学部長)

木田 直人 氏(首都大学東京都市教養学部准教授)

司会 湯浅正彦(本学文学部教授)